

爬虫類と漆の融合～可能性の追求～

クラフト分野 井波ゼミ A2201712 今野 桃嘉

研究の背景

私は昔から動物が好きで、ペットショップでアルバイトをしている。一般的に知られている小動物のほか爬虫類も取り扱っているが、ウサギなどに比べ飼うためのケージの種類が少なく、また似たようなものしかないことに気づいた。実際に爬虫類を飼っている友人に使っているケージについて聞いてみたところ、市販で売っている物ではなく自分で木材から作ったと言っていた。インターネットでも調べたが、友人のようにオリジナルの自作ケージを作っている人が多く、その素材の多くが木材であった。しかし無地の木は傷つきやすくその傷から雑菌が繁殖しやすいため生体にいい影響を与えない。そこで私は木材と相性がよく抗菌作用のある漆を取り入れ、機能性・見た目ともに追求したケージを制作し、新たな形を提案したい。

研究の目的

近頃人気が出てきている爬虫類だが、まだ一般的に多くは知られていない。しかし、何年も前からジャパンレプタイルエキスポやブラックアウトなど爬虫類に関するイベントが各地で開催されており、来場者数は年々増加している。爬虫類は他の動物に比べ個体によって価格の変動が大きく、高いものだと 100 万円を超えるものもある。また、爬虫類を飼っている方の多くはケージやケージの中のレイアウトに対するこだわりが強く、実際にフェスなどでレイアウトコンテストなるものが開催されている。そういったこだわりを持つユーザーに向けたケージを提案する。

計画(研究のプロセス)

- ・爬虫類を飼っている人の数・飼われている種類・売れているケージの形態などの詳しい調査
- ・漆と爬虫類との相性を検証
- ・アンケート調査
- ・調査、アンケート調査をもとにケージデザイン模索・決定

【制作工程】

木材切り出し(側面・背面・底面には合板、枠にはブナを使用)＋上面の金網の為の枠組み
アクリル板切り出し(全面の引き戸・側面の通気口用のため)
ダボ継ぎにより組み立てる→全体を#400 で研ぐ
柱の角にだけ麻布を貼る→角に二辺地粉の下地を付ける
角だけ#240 で軽く研ぐ→角に朱を二回塗る→その上に黒を塗る
内側を木地呂漆で塗る→外側を黒呂色漆で二回に分けて塗る
内側を#800 で研ぐ→外側を#800 で研ぐ
内側二回目の塗り→外側二回目の塗り
内側を#1000 で研ぐ→外側を#1000 で研ぐ
内側三回目の塗り→外側三回目の塗り内側を#1500 で研ぐ→外側を#1500 で研ぐ
装飾→仕上げ



↑木材切り出し



↑ダボ継ぎ調整



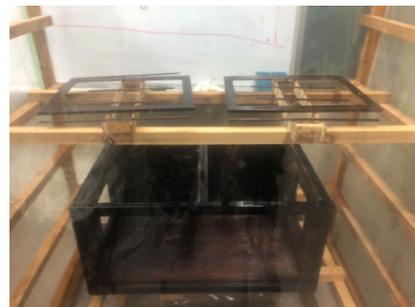
↑ダボ継ぎ固定



↑角に麻布を貼る様子



↑一回目の塗り



↑二回目の塗り

成果もしくは考察

今回は可能性の追求ということで爬虫類の新しい形のケージを制作した。

木材の切り出しからダボ継ぎを用いての組み立てなど大変な作業が多かったが、その分イメージ通りのケージが出来上がり後の作業のモチベーションに繋がった。

かなりの大きさの為、塗りや研ぎにとっても時間がかかり苦労したが、その分より慎重になり丁寧にできた。

制作を開始した当初は全体を黒塗りにし高級感を出そうと考えていたが、内側を木地呂で塗ることで暗色の爬虫類でも映えるようにし、また角に朱を塗ることによりアクセントが追加され、洗練されたイメージに近づけたのではないかと考える。

また、色漆で装飾することでエキセントリック感が増し、爬虫類がより映えるケージを制作出来たのではないと思う。